

令和5年度施設関係者評価実施報告書

社会福祉法人宝山寺福祉事業団
極楽坊あすかこども園

実施日:令和6年3月28日(木)

場所:極楽坊あすかこども園なんでも室

施設関係者評価委員:極楽坊あすかこども園愛護会 会長・副会長 児童発達支援いっぽ 主任

施設側参加者:極楽坊あすかこども園 園長・副園長 書記:極楽坊あすかこども園 事務

1. 園の教育・保育目標

やさしい心と健やかな身体を育てる。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

保育を必要とする子どもに対する保育並びに満3歳以上の子どもに対する教育を一体的に行い、子どもの健やかな成長が図られるよう、各法令等に則り、養護・教育にわたって一貫性、連続性のある保育実践を行う。また、仏教行事や地域の様々な人たち、園内での異年齢児との交流を通して、信仰心を培うとともに、優しさや感謝、思いやりの心をはぐくむ。

新園舎建設を令和4、5年度の2カ年事業として実施する。児童発達支援いっぽを含めた総合施設として、保育・教育から子育て支援まで幅広く地域の子育て支援の拠点として整備する。

(重点項目)

1. 「主体性を育む保育」について、共通理解を図る。
2. 研修や講習会に積極的に参加し、得られた知識や技術を職員間で共有し、教育・保育の質向上を図る。
3. 家庭や地域との連携を図りながら園児の保護者支援や地域の子育て家庭の支援を行う。
4. ICTの活用など、間接的業務の効率化を図り、保育の更なる充実・保護者の利便性向上・働きやすい職場環境を目指す。

3. 評価項目の評価及び委員の意見

| 評価項目 | 施設の評価 | 委員の意見 |
|-----------|---|--|
| 保育・教育について | <ul style="list-style-type: none"> ・新園舎移転後、さらに保育を充実させていきたい。 ・来年度から通年で上靴を使用し、保育の中ではだしで過ごす場面を作っていくようにする。 | <p>子どもたちの新園舎への順応は早く、新園舎での生活にすっかり慣れている。</p> |
| 食育 | <ul style="list-style-type: none"> ・栄養士と給食室の連携や、アレルギー児への対応は細やかにできた。 ・季節の食材、行事食について配慮し、食材を年齢に応じた大きさに切り分けている。 ・食育活動については、新園舎にも菜園ができ、野菜をそだたり、ゲームを通じて子どもたちに伝えるよう工夫した。 ・食育計画を作成しているが、見直しが必要な面もある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・年齢に応じて、子どもたちが野菜に触れる機会を継続して提供してほしい。 |
| 日時程 | <ul style="list-style-type: none"> ・新園舎に移行してから課外教室を取り入れたので、参加する子どもたちも含め、スムーズなオペレーションを検討した。まだ改善の余地はあると考えている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・課外教室に参加するようになったが、元気に毎日過ごすことができた。 ・課外教室に参加する園児の声が午睡園児の邪魔にならないか心配している。 |
| 行事 | <ul style="list-style-type: none"> ・「はるを呼ぶつどい」と「卒園式」の日程が近く、あわただしくなってしまった面があった。 ・行事のあり方や保育の中での位置づけ・目的を再確認し、主体性を育む保育に繋がるようにしていきたい。 ・これまでの記録を行事のノートに整理し、計画・実施・評価・改善に活用している。 ・行事は愛護会とも連携して、協力して進めてきた。 | <p>コロナの影響で、愛護会として行事に参加できる範囲を見直した。</p> |
| 経営・組織 | <ul style="list-style-type: none"> ● 年齢別・クラス運営 ・新園舎移転後、建物の配置の関係で日常的に乳児と幼児の異年齢が交流する機会が減ったので、機会を増やしていきたい。 | |

| | | |
|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 保健・安全指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・手洗い指導、感染症対策を実施している。過剰な対策をとることで、保育が窮屈にならないようにしたい。 ・コドモンで園での感染症への対応等を発信し、保護者の方にも家庭でできる対策を知らせた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・丁寧な手洗い指導や感染症対策を実施しているので、安心して子どもたちを任せられる。 ・園児の家庭生活において、避難訓練の成果が見られる。 ・こども園と合同の避難訓練は、いっぽの子どもたちが大規模行事に参加するいい機会となった。新しい子どもたちの姿が発見できた。 |
| <p>情報</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・個人情報をはじめとした重要な情報の管理方法は、各保育室で対応を統一して適切に行えるように確認している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・特段の意見なし。 |
| <p>施設・設備</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・新園舎では防犯対策として各保育室に非常連絡ボタンを設置した。 ・新園舎になってからの防犯対策などは、使用してから分かった点もあるので、点検・対策を行っていききたい。 ・幼児と乳児で送迎時の動線が異なるため、掲示物の刑事方法は工夫が必要。 | <ul style="list-style-type: none"> ・至誠会館駐車場出入口の視認性が悪い。 ・保護者用駐車場への不正駐車が、特に行事の時に増える。 ・正門前のスペースに不正駐車が見られる。 ・新園舎に移転後、他のクラスの状況を確認しにくくなった。 |
| <p>開かれたこども園づくり</p> | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 施設間交流・連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ以降、小学校とは引継連絡会以外の交流の機会が減っている。こども園側から小学校へ交流の働きかけを強めていってはどうか。 ・いっぽとの交流は、併設となったこともあり、進めていきたい。 ・コロナ以降中止していた梅寿荘、延寿との交流を再開した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・運動会での卒園児リレーや夏祭りへの卒園児参加を再開してほしい。同窓会もコロナ以降中止されている。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 家庭・地域社会との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・おはなしの会やボランティアの方に来ていただいている。 ・地域への働きかけをどのように行っていくか検討が必要。 ・コロナ後、飛鳥フェスティバルの実施方法が変更となり、以降参加できていない。参加できる行事があれば参加していきたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・特段の意見なし。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 子育て支援の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・園庭解放を実施しているが、参加者数は余り伸びなかった。アピールが不足しているのではないか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・園庭解放の参加者が増えない理由として、お昼寝時間に園庭解放を実施しているからではないか。午 |

| | | |
|---------|---|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・個別の相談には対応している。 ・保育士による各種講座(離乳食、ベビーマッサージ)を実施しても善いのではないか。 ・園医、子どもセンター等とコミュニケーションをとりながら、必要な情報を収集している。 | <p>前中であればなおよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はぐくみセンターのプログラムに参加する保護者に、園庭解放に参加してもらえるよう、チラシやポスターでPRしたらどうか。 |
| ● 情報の発信 | <p>コドモン等での発信を増やすことを検討する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・コドモンで見られる情報が増えた。 ・園での感染症の発生状況をHP、コドモンで確認できたら有難い。 |

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

新園舎の建設が令和 5 年 10 月に竣工し、移転作業もスムーズに行うことができました。建設や引っ越し作業にあたっては、子どもたちも保育の中で触れる機会を多く持ち、新しい建物ができていく様子や、作業をしている人たちとの交流、そして引っ越し作業を手伝いながら新しい環境をみんなで作り上げていく経験をしました。めったにできない経験を味わうことができ、子どもたちにとって記憶に残る一年になったのではないかと考えています。

新しい園舎では、広くなった園舎や園庭で快適に過ごすことができるようになり、保育活動もゆとりを持って行うことができるようになりました。引っ越し作業を含めてできなかった部分や、慌ただしくなってしまった部分もありましたが、来年度以降の保育活動では、さらに充実した内容にできるように活かしていきたいと考えています。

5. 今後取り組むべき課題

- ・一人一人の子どもたちに丁寧に関わり、恵まれた園の環境を活かして保育内容の充実を図る。
- ・子どもの主体性を育む保育について研究を深め、既成の方法にとらわれず望ましいあり方を目指す。
- ・併設となった児童発達支援いっぽとの連携を深め、一体となって子どもの育ちに関わりながら保育・子育て機能の強化を図る。